

推し相手と自分との心理的距離感導出の試行

Trial of Deriving Psychological Distance Between You and Your Favorite Person

大西 晴子¹ 北村 尊義¹

Haruko Onishi¹, Takayoshi Kitamura¹

¹ 香川大学大学院 創発科学研究科

¹ Graduate School of Science for Creative Emergence, Kagawa University

Abstract: 「推し」は人によって定義も距離感も異なり、「推し」の種類によっても距離感が変わる。本研究ではこの「推し」に焦点を当て、「推し」という言葉を定義したうえで、「推し」相手を「家族・親戚」から「実在しないキャラクター」までの6種類に分類したうえで調査した。その結果、相手によって心理的距離が反転するなど特徴的な結果が得られる一方で、調査で提示する情報によるイメージを統制するための条件に関する知見を導出できた。

1 はじめに

現在、「推し」という言葉が広く世間に浸透している。しかしこれはここ10年程で急速に広がった言葉である。ニッセイ基礎研究所の広瀬のレポート[1]によると、「推し」という言葉は80年代頃のアイドルブームの際、「モーニング娘。」のオタクを中心としたアイドルオタク界隈で発祥した俗語で、金沢のコラム[2]によると、「モーニング娘。」のファンだった指原莉乃らAKB48メンバーがアイドルになったことで、俗語からアイドル側とオタク側の共通言語にまでなったという。その後のAKB48選抜総選挙がTV中継されたことでマスメディアによって「推し=好きなもの」として世間に広まることとなった。2021年には宇佐見りんの書籍「推し、燃ゆ」[3]が芥川賞に選ばれるなど、現在では完全に一般化した言葉となっている。しかし、「推し」という言葉は認知されていても、言葉のニュアンスは人によって異なると言わざるを得ない。デジタル大辞泉[4]では「推し」は「他の人にすすめること。また俗に、人にすすめたいほど気に入っている人や物。」と記載されているが、「推し」を持つ人の中には「同担拒否」という、自分と同じ「推し」を持つ人と関わりたくない意思を示す場合もある。このことから、一概に「推し=人にすすめたい人や物」という意味ではとらえられないと分かる。

本研究では、身近な「推し」とそうでない「推し」との心理的距離の違いに着目し、一般的な「推し」の特性を明らかにすることを目的とする。そのために、6種類の「推し」の条件を提示し、その性別や心理的距離をアンケート調査を実施した。

2 関連研究

2.1 では人間の利他性、2.2 では「推し」の感覚、2.3 では心理的所有感について述べる。

2.1 人間の利他性

人間の利他性について名古屋工業大学の小田は様々な文献を取り上げて論じている。小田の論文[5]では利他行動はそもそも自然淘汰によって生物に残ったものであるとしている。生物の歴史の中で生まれて残ってきた利他行動は人間以外に、チスイコウモリ[6]などに代表される動物にも見られる。このことから、人間の利他性は生物として生き残るために備わった機能であり、現在生きている人間には利他的な行動をする性質が必ず備わっていると言える。

2.2 「推し」の感覚

「推し」を語る作品は多く、2018年からNHKで放送されている「沼にハマってきいてみた」[7]や2020年1月にTVアニメ、2022年10月にはTVドラマ化した漫画「推しが武道館いってくれたら死ぬ」[8]などがある。これらの作中では「推し」はデジタル大辞泉[4]の「他の人にすすめること。また俗に、人にすすめたいほど気に入っている人や物。」と同様の意味で表現され、「推し」のすばらしさを伝えるために「推し」を推す人々が登場する。先中の人々は「推し」を気に入っている人や物として推しているように描写されるが、全ての人にとって「推

し」＝気に入っている人や物ではない。そのことを分かりやすく描写している小説として宇佐見りんの「推し、燃ゆ」[3]が挙げられる。「推し、燃ゆ」の主人公であるあかりは自身の肉体に不自由を抱えている。それによって少しずつ自分の能力や存在価値を否定し、自分自身に興味がなくなってしまった。結果、あかりは自分の代わりに「推し」に求めるようになる。自分の代わりに「推し」が目標を達成し価値を示し、さらには他者との繋がりまで作ってくれる。だからこそ強迫的なまでに「推し」を推すのである。作中であかりは「推し」と一体になることを望み、推しを推すことを生活の中心、「背骨」とまで評している。森岡[9]は「推し、燃ゆ」の書評において、「推し、燃ゆ」の作中では「推す」という行為は一方的なコミュニケーションであり、信仰にも似た行為であると述べている。このような人々にとって、「推し」は同一化の対象であり神に等しい存在であると言える。さらに、池田[10]は「推し」を「日常生活の外の人物」あるいは「自分にとって手の届かない人物」であるとしている。

これらのことを総括すると、「推し」は「日常生活の外の人物」あるいは「自分にとって手の届かない人物」であり、推す側にとって「人にすすめたいほど気に入っている人や物」または「同一化の対象であり神に等しい存在」と言える。

2.3 心理的所有感

「推し」の感覚について、井上と上田[11]は「推す」行為をファンがアイドルに対して心理的所有感を持つことであると主張している。なお、心理的所有感には Pierce, Kostova ら[12]によれば「所有の対象、またはその一部について『自分のものだ』と感じている認知的・感情的状態」をさす。馬場[13]は推すことを「理想や願望が象徴として整理された対象を選び出す能動的な行為」で「対象愛というよりも、むしろ人形を愛するような自己言及的なもの、すなわち『人形愛』に近い」と述べた。それを加味して井上と上田[11]は推すことを、常にファンが主体でアイドルが客体となる虚構的な遊びであり、本質的に心理的所有感を抱く相手を決める行為であるとしている。また、アイドルとのコミュニケーションは双方向的なものではなくオタクの内部で循環するため、アイドルに対して心理的所有感を抱くことが可能になるという。結論として井上と上田[11]は、心理的所有感には心理的一体感と心理的責任感に、同担意識を仲間意識と競争意識の2種類に分けた。心理的一体感の強いファンは推しが拡張自己であり同担同士はそれ

ぞれが拡張自己を応援する存在とした仲間意識を持つこと、また、心理的責任感の強いファン同士は自分と同担を推しという綱を互いに引き合う対峙的な競争相手とするという。その他この2種類の同担意識はウェルビーイングに正に影響していること、心理的一体感と同担意識が高いと推しを応援し続けなくなり、逆に心理的責任感と競争意識が強いと続けたくなくなるということも分かった。

このことから「推し」を勧めたい「同担歓迎」は心理的一体感と仲間意識を持ち、「同担拒否」は心理的責任感と競争意識を持つことが分かる。しかしこれは推す側の条件で、「推し」がどのような人や物であるかによらない。

3 心理的距離調査

本調査は2023年12月に行った。3.1に調査の概要、3.2に調査の目的、3.3に調査の方法、3.4にはアンケートに利用した美山[14]の論文(以下、美山論文と呼称する)での心理的距離測定方法、3.5にアンケート内容、3.6に分析結果、3.7に美山論文との比較、3.8に考察を記載する。

3.1 調査の概要

本調査は「推し」と言える相手によって心理的距離に変化がある、と仮説を立てて調査し、分析を行った。2023年の12月8日から13日間で、34人に回答を得た。Microsoft Wordで作成した紙面アンケートに対面で回答してもらい、所要時間は平均15分だった。調査では実験協力者それぞれに「推し」と言える相手を6種類提示し、それぞれについて自分から相手、相手から自分の2種類の心理的距離を100mmの線分上に縦線で記入してもらった。心理的距離の測定方法は美山の論文[14]にある心理的距離の測定方法を適宜修正して利用した。美山の論文内の心理的距離測定方法は3.4に記載する。心理的距離以外に相手と自分の性別も調査し、性別と距離で検定をかけ分析を行った。

3.2 調査の目的

「推し」を定義することで、「推し」を定義する際に利用する特徴の一つとして心理的距離が利用できると考えられる。そこで、本調査の目的は心理的距離の測定することで何らかの特徴を明らかにすることとする。

3.3 調査の方法

調査方法を表 1 に記載する。なお、アンケートでは回答の前に「推し」という言葉について用語定義を行っている。これは「推し」という言葉が人によって思い浮かべる意味が微妙に違うため、統一するために行った。

表 1：調査方法

アンケート条件	詳細
期間	2023/12/8~12/20 (13 日間)
時間	平均 15 分
場所	香川大学 5 号館 3 階 香川大学研究交流棟 1 階
調査対象	大学生・大学院生、計 34 人
回答方法	対面での紙面アンケート
質問数	25 問
手順	①実験概要の説明 ②用語定義 ③アンケートへの回答

3.4 美山の論文での心理的距離測定方法

本研究では心理的距離の測定に美山論文[14]にある方法を修正して用いた。美山論文[14]の心理的距離測定方法は天貝[15]の用いた投影法による心理的距離の測定法を、差を図ることができるように修正を加えたものになる。美山論文[14]では左端に○を添えた 9.5cm の線分と以下の質問文を示して距離を記入してもらうという方法を取っている。距離は自分が思う相手までの距離と、相手が思っているだろう自分までの距離の 2 種類である。なお、基準となるように線分の右端を全く知らない人と設定し、点間距離は線分誤差を考慮して 0.5cm 刻みの 20 段階で評定している。

質問文は以下に箇条書きで記載する。

- 《自分→相手》：
下に示す図において、あなたが一番左端の○のところにいるとします。一番右端は全く知らない人として。次にあげるそれぞれの人は、あなたの気持ちからどのくらいの距離にいますか
- 《相手→自分》：
今度は、あなたの思い浮かべた人が一番左端の○のところにいるとします。一番右端はその人が全

く知らない人として。次にあげるそれぞれの人はその人の気持ちからどのくらいの距離にいると思いますか。その人がどのように思っているかを想像して、あなたの推定するところに、印を付けてください

3.5 アンケート内容

次に本稿のアンケート内容を記載する。

「推し」を「人にすすめたいほど気に入っている人や物」と定義した上で、実験協力者に一番の「推し」となる相手を条件ごとに 1 人ずつ想像してもらい、回答してもらった。相手（推し）の条件は 6 種類で、相手がいない場合もあるため 1 人頭最大 6 人、最小で 0 人の回答となった。アンケートに記載した相手の条件は以下の表 2 に記載する。

表 2：相手の条件

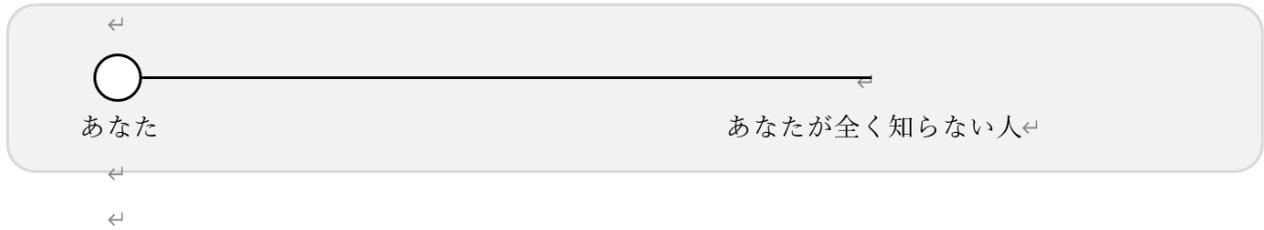
相手	条件
1	家族・親戚の中での、一番の「推し」 (ペットは含まない)
2	同性の友人たちの中での、一番の「推し」
3	異性の友人たちの中での、一番の「推し」
4	前述の 3 人以上に、あなたが連絡を取れる人の中での、一番の「推し」
5	あなたが連絡を取れない人の中での、一番の「推し」(歴史上の人物などを含む)
6	実在しない人物・キャラクターの中での、一番の「推し」

アンケートの回答は計 25 問。相手 (最大 6 人) に対して、「A」相手の詳細「B」自分→相手の距離「C」相手→自分の距離「D」その他」の 4 つを回答してもらい、最後に自身の性別を選択してもらい終了とした。なお、D) は結果に特徴も出ず本研究に直接関係がないため本稿では割愛している。

A) では相手がいるのかどうか、さらにいるならばその性別を尋ねた。相手の性別は「女性/男性/分からない・性別がない」の 3 種類である。B) と C) は美山論文の方法から線分の長さ・距離の記入方法・質問文を修正したもので心理的距離を測定した。実際に使用した測定方法を以下の図 1 に示す。

心理的距離を記入してもらう線分の長さは測定しやすいうように 100 mm に変更して 1 mm 単位で測定し、記入する際は○ではなく縦線を記入してもらった。

B) 《自分→相手》の距離



C) 《相手→自分》の距離



図 1 : 本調査での心理的距離測定方法

3.6 分析結果

以降の相手 1 から 6 はローマ数字の I から VI で表すこととする。

回答は 1 人以外の 33 人から最低でも 1 人「押し」の回答を得た。回答数が最も少なかったのは相手 III の「異性の友人の中での一番の『押し』」で 22 人、最も多かったのが相手 V の「連絡を取れない人の中での一番の『押し』」で 29 人である。その他の相手は、34 人中相手 I、II、VI がいると答えた人が 27 人、相手 IV がいると答えた人が 24 人だった。

相手 I から VI に関して、相手がいなかった人を除いてから自分の性別と相手の性別、自分→相手の距離、相手→自分の距離で t 検定や f 検定をかけて有意差や有意傾向、平均値等を見た。分析は一对の標

本による平均の t 検定と f 検定、等分散・非等分散の t 検定の 4 種類である。

5%水準で検定をかけ、検定結果の欄には not significant (傾向なし) を「n.s.」で、 $p < .10$ の有意傾向を「†」で、有意差のうち $p < .05$ を「*」、 $p < .01$ を「**」、 $p < .001$ を「***」で、検定が不可能だった場合は「-」、検定結果が 0 の場合は「p=0」で表す。表の平均値は小数点第三位を四捨五入した値を単位 mm で、データ数は「N 数」の欄に記載している。

表 3 から 8 に相手 I から VI の全ての結果を検定条件ごとにまとめて平均値を比較し有意差や有意傾向について述べる。

なお表 3 と 4 は一对の標本による平均の t 検定結果、表 5 から 8 は f 検定、等分散・非等分散の t 検定結果を記載している。

表 3 : (検定条件ごとのまとめ) 一对の標本による平均の t 検定結果 1

検定条件	相手	N 数	平均値			検定結果
			①自分→相手の距離	②相手→自分の距離	①-②	
全体	I	27	17.21	24.88	-7.68	*
	II	27	19.79	31.37	-11.57	*
	III	22	29.92	35.94	-6.01	**
	IV	24	28.60	35.07	-6.47	n.s.
	V	29	42.06	91.24	-49.17	***
	VI	27	31.83	88.77	-56.94	***
同性同士	I	22	14.34	23.82	-7.48	†
	IV	16	32.68	44.73	-12.04	*
	V	12	32.12	93.75	-61.63	***
	VI	7	30.95	82.44	-51.49	**

※n.s.:not significant, † : $p < .10$, *: $p < .05$, **: $p < .01$, ***: $p < .001$

表 4 : (検定条件ごとのまとめ) 一対の標本による平均の t 検定結果 2

検定条件	相手	N 数	平均値		検定結果	検定条件	相手
			①自分→相手の距離	②相手→自分の距離			
女性同士	I	12	12.15	13.98	-1.82	n.s.	
	II	13	16.35	24.84	-8.49	n.s.	
	IV	9	29.05	45.60	-16.55	†	
	V	2	46.88	100	-53.13	n.s.	
	VI	1	0	28.13	-28.13	-	
男性同士	I	10	21.35	35.63	-14.27	†	
	II	14	22.99	37.43	-14.43	*	
	IV	7	37.35	43.60	-6.25	†	
	V	10	29.17	92.5	-63.33	***	
	VI	6	36.11	91.49	-55.38	**	
異性同士	I	5	21.04	29.58	-8.54	n.s.	
	IV	8	20.44	15.76	4.69	n.s.	
	V	5	47.78	88.06	-40.28	**	
	VI	10	32.71	89.48	-56.77	***	
自分女性× 相手男性	I	2	12.5	19.27	-6.77	n.s.	
	III	9	36.23	40.74	-4.51	n.s.	
	IV	3	17.36	22.92	-5.56	n.s.	
	V	12	41.41	86.55	-45.14	**	
	VI	8	38.54	87.5	-48.96	**	
自分男性× 相手女性	I	3	26.74	36.46	-9.72	n.s.	
	III	13	25.56	32.61	-7.05	*	
	IV	5	22.29	11.46	10.83	n.s.	
	V	3	73.26	94.10	-20.83	n.s.	
	VI	2	9.38	97.40	-88.02	*	
自分女性× 相手性別不明	V	1	87.5	100	-12.5	-	
	VI	6	44.62	99.83	-3.72	*	
自分男性× 相手性別不明	V	1	30.21	100	-69.79	-	
	VI	4	11.98	81.51	-69.53	*	

※n.s.:not significant, † :p<.10,*:p<.05,**:p<.01,***:p<.001

表 3 と 4 にある一対の標本による平均の t 検定での結果や平均値の比較について述べる。

「全体」の平均値を比較すると、自分→相手の距離と相手→自分の距離は両方とも相手 I < II < IV < III < VI < V の順に距離が長く、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2 つの距離の差は相手 III < IV < I < II < V < VI の順に大きくなる。なお、相手 IV 以外で有意差があり、相手 V と VI は p<.001 で大きく有意傾向があった。

「同性同士」の平均値は相手 II と III 以外で比較し、自分→相手の距離は相手 I < VI < V < IV、相手→自分の距離は相手 I < IV < VI < V の順に距離が長くなり、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2 つの距離の差は相手 I < IV < VI < V の順に大きくなる。なお、相手 I で有意

傾向が、その他で有意差があり、相手 V は p<.001 で大きく有意差があった。

「女性同士」の平均値は相手 III 以外で比較し、自分→相手の距離は相手 VI < I < II < IV < V、相手→自分の距離は相手 I < II < VI < IV < V の順に距離が長くなり、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2 つの距離の差は相手 I < II < IV < VI < V の順に大きくなる。なお、相手 IV のみ有意傾向があった。その他は傾向なしまたは検定不可能だった。

「男性同士」の平均値も相手 III 以外で比較し、自分→相手の距離は相手 I < II < V < VI < IV、相手→自分の距離は相手 I < II < IV < VI < V の順に距離が長くなり、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2 つの距離の差は相

手IV < I < II < VI < Vの順に大きくなる。なお、相手IとIVで有意傾向が、その他で有意差があり、相手Vは $p < .001$ で大きく有意差があった。

「異性同士」の平均値は相手IIとIII以外で比較し、自分→相手の距離は相手IV < I < VI < V、相手→自分の距離は相手IV < I < V < VIの順に距離が長くなり、比較すると相手IV以外は自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2つの距離の差は相手IV < I < V < VIの順に大きくなる。なお、相手VとVIのみで有意差があり、相手VIは $p < .001$ で大きく有意差があった。

「自分が女性で相手が男性」の平均値は相手II以外で比較し、自分→相手の距離は相手I < IV < III < VI < V、相手→自分の距離は相手I < IV < III < V < VIの順に距離が長くなり、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2つの距離の差は相手III < IV < I < V < VIの順に大きくなる。なお、相手VとVIのみで有意差があった。

「自分が男性で相手が女性」の平均値も相手II以外で比較し、自分→相手の距離は相手VI < IV < III < I < V、相手→自分の距離は相手IV < III < I < V < VIの順に距離が長くなり、比較すると相手IV以外は自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2つの距離の差は相手III < I < IV < V < VIの順に大きくなる。なお、相手IIIとVIのみで有意差があった。

「自分が女性で相手が性別不明」の平均値は相手VとVIのみで比較し、自分→相手の距離も相手→自分の距離も相手VI < Vの順に距離が長くなり、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2つの距離の差は相手VI < Vの順に大きくなる。なお、相手Vは検定不可能で、相手VIは有意差があった。

「自分が男性で相手が性別不明」の比較結果等は前述の「自分が女性で相手が性別不明」と同様になった。

「自分が女性」の平均値は相手IIとIII以外で比較し、自分→相手の距離も相手→自分の距離も相手I < IV < VI < Vの順に距離が長くなり、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2つの距離の差は相手I < IV < V < VIの順に大きくなる。なお、相手IVで有意傾向が、相手VとVIでは $p < .001$ で大きく有意差があった。

「自分が男性」の平均値も相手IIとIII以外で比較し、自分→相手の距離は相手I < VI < IV < V、相手→自分の距離は相手IV < I < VI < Vの順に距離が長くなり、比較すると相手IV以外は自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2つの距離の差は相手IV < I < V < VIの順に大きくなる。な

お、相手IとVとVIで有意差があり、相手VとVIは $p < .001$ で大きく有意差があった。

「相手が女性」の平均値も相手IIとIII以外で比較し、自分→相手の距離は相手VI < I < IV < V、相手→自分の距離は相手I < IV < VI < Vの順に距離が長くなり、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2つの距離の差は相手I < IV < V < VIの順に大きくなる。なお、相手VとVIのみで有意傾向があった。

「相手が男性」の平均値も相手IIとIII以外で比較し、自分→相手の距離は相手I < IV < V < VI、相手→自分の距離は相手I < IV < VI < Vの順に距離が長くなり、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2つの距離の差は相手IV < I < VI < Vの順に大きくなる。なお、相手Iで有意傾向が、相手IVとVとVIで有意差があった。特に相手VとVIは $p < .001$ で大きく有意差があった。

「相手が性別不明」の平均値は相手VとVIのみで比較し、自分→相手の距離も相手→自分の距離も相手VI < Vの順に距離が長くなり、比較すると自分→相手の距離より相手→自分の距離の方が長くなった。2つの距離の差は相手V < VIの順に大きくなる。なお、相手VIのみ $p < .001$ で大きく有意差があった。

次に表5から8でf検定と等分散・非等分散のt検定の結果と平均値の比較について記載する。自分→相手の距離の平均値においては表5と6のようになった。

「同性同士」と「異性同士」で比較したところ、相手IとVとVIは「同性同士」より「異性同士」の方が距離が長く、逆に相手IVは「同性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手VIで値は1.76、最も大きいのは相手Vで値は15.66である。なお、相手Vのみf検定で有意差があった。

「女性同士」と「男性同士」で比較したところ、相手IとIIとIVとVIは「女性同士」より「男性同士」の方が距離が長く、逆に相手Vは「女性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手IIで値は6.64、最も大きいのは相手VIで値は36.11である。なお、有意傾向等はなく、相手VIは検定不可能であった。

「自分が女性で相手が男性」と「自分が男性で相手が女性」で比較したところ、相手IとIVとVとVIは「自分が女性で相手が男性」より「自分が男性で相手が女性」の方が距離が長く、逆に相手IIIは「自分が女性で相手が男性」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手IVで値は4.93、最も大きいのは相手Vで値は31.86である。なお、相手

表5：(自分→相手の距離) f 検定、等分散・非等分散の t 検定結果 1

検定条件	相手	N 数	平均値	①-②	f 検定	等分散の t 検定	非等分散の t 検定
①同性同士	I	22	16.34	-4.71	n.s.	n.s.	n.s.
②異性同士		5	21.04				
①同性同士	IV	16	32.68	12.24	n.s.	n.s.	n.s.
②異性同士		8	20.44				
①同性同士	V	12	32.12	-15.66	*	n.s.	n.s.
②異性同士		15	47.78				
①同性同士	VI	7	30.95	-1.76	n.s.	n.s.	n.s.
②異性同士		10	32.71				
①女性同士	I	12	12.15	-9.20	n.s.	n.s.	n.s.
②男性同士		10	21.35				
①女性同士	II	13	16.35	-6.64	n.s.	n.s.	n.s.
②男性同士		14	22.99				
①女性同士	IV	9	29.05	-8.30	n.s.	n.s.	n.s.
②男性同士		7	37.35				
①女性同士	V	2	46.88	17.71	n.s.	n.s.	n.s.
②男性同士		10	29.17				
①女性同士	VI	1	0	-36.11	-	-	-
②男性同士		6	36.11				
①自分女性×相手男性	I	2	12.5	-14.24	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		3	26.74				
①自分女性×相手男性	III	9	36.23	10.67	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		13	25.56				
①自分女性×相手男性	IV	3	17.36	-4.93	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		5	22.29				
①自分女性×相手男性	V	12	41.41	-31.86	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		3	73.26				
①自分女性×相手男性	VI	8	38.54	-29.17	n.s.	n.s.	*
②自分男性×相手女性		2	9.38				
①女性同士	I	12	12.15	-0.35	n.s.	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		2	12.5				
①女性同士	IV	9	29.05	11.69	n.s.	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		3	17.36				
①女性同士	V	2	46.88	5.47	n.s.	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		12	41.41				
①女性同士	VI	1	0	-38.54	-	-	-
②自分女性×相手男性		8	38.54				

※n.s.:not significant, † :p<.10,*:p<.05,**:p<.01,***:p<.001

VIのみ非等分散の t 検定で有意差があった。
「女性同士」と「自分が女性で相手が男性」で比較したところ、相手 I と VI は「女性同士」より「自分が女性で相手が男性」の方が距離が長く、逆に相手 IV と V は「女性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手 I で値は 0.35、最も

大きいのは相手 VI で値は 38.54 である。なお、有意傾向等はなく、相手 VI は検定不可能であった。「女性同士」と「自分が男性で相手が女性」で比較したところ、相手 I と V と VI は「女性同士」より「自分が男性で相手が女性」の方が距離が長く、逆に相手 IV は「女性同士」の方が距離が長くなっている。距離

表 6 : (自分→相手の距離) f 検定、等分散・非等分散の t 検定結果 2

検定条件	相手	N 数	平均値	f 検定		等分散の t 検定		非等分散の t 検定	
					①-②				
①女性同士	I	12	12.15	-14.58	n.s.	n.s.	n.s.		
②自分男性×相手女性		3	26.74						
①女性同士	IV	9	29.05	6.76	n.s.	n.s.	n.s.		
②自分男性×相手女性		5	22.29						
①女性同士	V	2	46.88	-26.39	n.s.	n.s.	n.s.		
②自分男性×相手女性		3	73.26						
①女性同士	VI	1	0	-9.38	-	-	-		
②自分男性×相手女性		2	9.38						
①男性同士	I	10	21.35	8.85	n.s.	n.s.	n.s.		
②自分女性×相手男性		2	12.5						
①男性同士	IV	7	37.35	19.99	n.s.	n.s.	n.s.		
②自分女性×相手男性		3	17.36						
①男性同士	V	10	29.17	-12.24	†	n.s.	n.s.		
②自分女性×相手男性		12	41.41						
①男性同士	VI	6	36.22	-2.43	n.s.	n.s.	n.s.		
②自分女性×相手男性		8	38.54						
①男性同士	I	10	21.35	-5.38	n.s.	n.s.	n.s.		
②自分男性×相手女性		3	26.74						
①男性同士	IV	7	37.35	15.06	n.s.	n.s.	n.s.		
②自分男性×相手女性		5	22.29						
①男性同士	V	10	29.17	-44.10	*	*	n.s.		
②自分男性×相手女性		3	73.26						
①男性同士	VI	6	36.11	26.74	n.s.	n.s.	†		
②自分男性×相手女性		2	9.38						
①自分女性×相手性別不明	V	1	87.5	57.29	-	-	-		
②自分男性×相手性別不明		1	30.21						
①自分女性×相手性別不明	VI	6	44.62	32.64	**	n.s.	†		
②自分男性×相手性別不明		4	11.98						

※n.s.:not significant, † :p<.10,*:p<.05,**:p<.01,***:p<.001

の差が最も小さいのは相手IVで値は 6.76、最も大きいのは相手Vで値は 26.39 である。なお、有意傾向等はなく、相手VIは検定不可能であった。

「男性同士」と「自分が女性で相手が男性」で比較したところ、相手VとVIは「男性同士」より「自分が女性で相手が男性」の方が距離が長く、逆に相手IとIVは「男性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手VIで値は 2.43、最も大きいのは相手IVで値は 19.99 である。なお、相手Vのみ f 検定で有意傾向があった。

「男性同士」と「自分が男性で相手が女性」で比較したところ、相手IとVは「男性同士」より「自分が男性で相手が女性」の方が距離が長く、逆に相手IVとVIは「男性同士」の方が距離が長くなっている。

距離の差が最も小さいのは相手Iで値は 5.38、最も大きいのは相手Vで値は 44.10 である。なお、相手Vにおいて f 検定と等分散の t 検定で有意差が、相手VIにおいて非等分散の t 検定で有意傾向があった。

「自分が女性で相手が性別不明」と「自分が男性で相手が性別不明」で比較したところ、相手VもVIも「自分が男性で相手が性別不明」より「自分が女性で相手が性別不明」の方が距離が長くなっている。距離の差が小さいのは相手VIで値は 32.64、大きいのは相手Vで値は 57.29 である。なお、相手Vは検定不可能で相手VIは f 検定で有意差が、非等分散の t 検定で有意傾向があった。

次に表 7 と 8 にある相手→自分の距離の平均値に

において比較する。

表 7：(相手→自分の距離) f 検定、等分散・非等分散の t 検定結果 1

検定条件	相手	N 数	平均値	①-②	f 検定	等分散の t 検定	非等分散の t 検定
①同性同士	I	22	23.82	-5.77	n.s.	n.s.	n.s.
②異性同士		5	29.58				
①同性同士	IV	16	44.73	28.97	*	*	**
②異性同士		8	15.76				
①同性同士	V	12	93.75	5.69	†	n.s.	n.s.
②異性同士		15	88.06				
①同性同士	VI	7	82.44	-7.04	n.s.	n.s.	n.s.
②異性同士		10	89.48				
①女性同士	I	12	13.98	-21.65	n.s.	†	†.
②男性同士		10	35.63				
①女性同士	II	13	24.84	-12.59	n.s.	n.s.	n.s.
②男性同士		14	37.43				
①女性同士	IV	9	45.60	2.00	n.s.	n.s.	n.s.
②男性同士		7	43.60				
①女性同士	V	2	100	7.5	p=0	n.s.	n.s.
②男性同士		10	92.5				
①女性同士	VI	1	28.13	-63.37	-	-	-
②男性同士		6	91.49				
①自分女性×相手男性	I	2	19.27	-17.19	†	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		3	36.46				
①自分女性×相手男性	III	9	40.74	8.13	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		13	32.61				
①自分女性×相手男性	IV	3	22.92	11.46	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		5	11.46				
①自分女性×相手男性	V	12	86.55	-7.55	*	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		3	94.10				
①自分女性×相手男性	VI	8	87.5	-9.90	†	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		2	97.40				
①女性同士	I	12	13.98	-5.30	n.s.	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		2	19.27				
①女性同士	IV	9	45.60	22.69	n.s.	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		3	22.92				
①女性同士	V	2	100	13.45	p=0	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		12	86.55				
①女性同士	VI	1	28.13	-59.38	-	-	-
②自分女性×相手男性		8	87.5				

※n.s.:not significant, † :p<.10,*:p<.05,**:p<.01,***:p<.001
分散の t 検定すべてにおいて有意差が、相手 V は f 検定で有意傾向があった。

「同性同士」と「異性同士」で比較したところ、相手 I と VI は「同性同士」より「異性同士」の方が距離が長く、逆に相手 IV と V は「同性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手 V で値は 5.69、最も大きいのは相手 IV で値は 18.97 である。なお、相手 IV は f 検定、等分散・非等

「女性同士」と「男性同士」で比較したところ、相手 I と II と VI は「女性同士」より「男性同士」の方が距離が長く、逆に相手 IV と V は「女性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さい

表 8 : (相手→自分の距離) f 検定、等分散・非等分散の t 検定結果 2

検定条件	相手	N 数	平均値	①-②	f 検定	等分散の t 検定	非等分散の t 検定
①女性同士	I	12	13.98	-22.48	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		3	36.46				
①女性同士	IV	9	45.60	34.14	*	*	**
②自分男性×相手女性		5	11.46				
①女性同士	V	2	100	5.90	p=0	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		3	94.10				
①女性同士	VI	1	28.13	-69.27	-	-	-
②自分男性×相手女性		2	97.40				
①男性同士	I	10	35.63	16.35	†	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		2	19.27				
①男性同士	IV	7	43.60	20.68	n.s.	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		3	22.92				
①男性同士	V	10	92.5	5.95	†	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		12	86.55				
①男性同士	VI	6	91.49	3.99	*	n.s.	n.s.
②自分女性×相手男性		8	87.5				
①男性同士	I	10	35.63	-0.83	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		3	36.46				
①男性同士	IV	7	43.60	32.14	*	†	*
②自分男性×相手女性		5	11.46				
①男性同士	V	10	92.5	-1.60	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		3	94.10				
①男性同士	VI	6	91.49	-5.90	n.s.	n.s.	n.s.
②自分男性×相手女性		2	97.40				
①自分女性×相手性別不明	V	1	100	0	-	-	-
②自分男性×相手性別不明		1	100				
①自分女性×相手性別不明	VI	6	99.83	18.32	***	n.s.	n.s.
②自分男性×相手性別不明		4	81.51				

※n.s.:not significant, † :p<.10,*:p<.05,**:p<.01,***:p<.001

のは相手IVで値は 2.00、最も大きいのは相手VIで値は 63.37 である。なお、相手 I のみ等分散・非等分散の t 検定で有意傾向があり、相手IVの f 検定と相手VIは検定不可能であった。

「自分が女性で相手が男性」と「自分が男性で相手が女性」で比較したところ、相手 I と V と VI は「自分が女性で相手が男性」より「自分が男性で相手が女性」の方が距離が長く、逆に相手IIIとIVは「自分が女性で相手が男性」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手Vで値は 7.55、最も大きいのは相手 I で値は 17.19 である。なお、相手 I は f 検定で有意傾向が、相手Vは f 検定で有意差が、相手VIは f 検定で有意傾向があった。

「女性同士」と「自分が女性で相手が男性」で比

較したところ、相手 I と VI は「女性同士」より「自分が女性で相手が男性」の方が距離が長く、逆に相手IVとVは「女性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手 I で値は 5.30、最も大きいのは相手VIで値は 59.38 である。なお、有意傾向等はなく、相手Vの f 検定と相手VIは検定不可能であった。

「女性同士」と「自分が男性で相手が女性」で比較したところ、相手 I と VI は「女性同士」より「自分が男性で相手が女性」の方が距離が長く、逆に相手IVとVは「女性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手Vで値は 5.90、最も大きいのは相手VIで値は 69.27 である。なお、相手IVは f 検定、等分散・非等分散の t 検定すべてに

において有意差があり、相手Vのf検定と相手VIは検定不可能であった。

「男性同士」と「自分が女性で相手が男性」で比較したところ、相手IもIVもVもVIも「自分が女性で相手が男性」より「男性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手VIで値は3.99、最も大きいのは相手IVで値は20.68である。なお、相手IとVはf検定で有意傾向が、相手VIはf検定で有意差があった。

「男性同士」と「自分が男性で相手が女性」で比較したところ、相手IとVとVIは「男性同士」より「自分が男性で相手が女性」の方が距離が長く、逆に相手IVは「男性同士」の方が距離が長くなっている。距離の差が最も小さいのは相手Iで値は0.83、最も大きいのは相手IVで値は32.14である。なお、相手IVにおいてのみ、f検定と非等分散のt検定で有意差が、等分散のt検定で有意傾向があった。

「自分が女性で相手が性別不明」と「自分が男性で相手が性別不明」で比較したところ、相手VIは「自分が女性で相手が性別不明」より「自分が男性で相手が性別不明」の方が距離が長くなっている。相手Vに距離の差はなく、相手VIの距離の差は18.32である。なお、相手Vは検定不可能で相手VIはf検定において $p<.001$ で大きく有意差があった。

その他調査中に得られた意見を以下に箇条書きで記載する。

- 「推し」の定義に違和感があった
- 個人的に「推し」を作らないようにしている。のめり込むと思うから
- 「推し」の「人に薦めたい」の部分がピンとこない
- 「推しが異性」なことはあっても、「異性が推し」になることはないかもしれない
- 「連絡を取れない」はX (Twitter) [26]などのSNSでつながっているのは含むのか
- 連絡を取れない相手は絶対に心理的距離が右端になるのではないか
- Vtuberが相手VとVIのどちらに入るのか分からなかった

3.7 美山論文との比較

美山論文[14]では自分→相手の距離も相手→自分の距離も、女性は男性よりも距離を小さく回答し、分散分析結果は $p<.001$ だった。

本調査の結果では、相手Iは自分→相手の距離と相手→自分の距離のどちらの距離も「女性同士」<「男性同士」、「自分が女性相手が男性」<「自分が

男性相手が女性」、「自分が女性」<「自分が男性」となり、相手IIは自分→相手の距離と相手→自分の距離のどちらの距離も「女性同士」<「男性同士」となり、美山論文の結果と同様に自分が女性の方が心理的距離が小さくなった。

しかし相手IIIは自分→相手の距離と相手→自分の距離のどちらの距離も「自分が女性で相手が男性」>「自分が男性で相手が女性」で美山論文と異なり女性の方が男性より距離を大きく回答している。また相手IVは自分→相手の距離において「女性同士」<「男性同士」、「自分が女性相手が男性」<「自分が男性相手が女性」、「自分が女性」<「自分が男性」で美山論文の結果と同様に自分が女性の方が心理的距離が小さくなったが、相手→自分の距離においては「女性同士」>「男性同士」、「自分が女性相手が男性」>「自分が男性相手が女性」で美山論文と異なり女性の方が男性より距離を大きく回答している。相手Vは自分→相手の距離と相手→自分の距離のどちらの距離も「女性同士」>「男性同士」「自分が女性相手が男性」<「自分が男性で相手が女性」、自分→相手の距離において「自分が女性」>「自分が男性」、相手→自分の距離において「自分が女性」<「自分が男性」となり距離を女性が小さく回答することもあれば大きく回答することもあった。同様に相手VIは自分→相手の距離と相手→自分の距離のどちらの距離も「女性同士」<「男性同士」、自分→相手の距離において「自分が女性相手が男性」>「自分が男性で相手が女性」、「自分が女性」>「自分が男性」で相手→自分の距離において「自分が女性相手が男性」<「自分が男性で相手が女性」、「自分が女性」<「自分が男性」となり距離を女性が小さく回答することも大きく回答することもあった。

さらに美山論文[14]では異性同士より同性同士の組み合わせの方が「自分→相手の距離」<「相手→自分の距離」になる人が多い、という結果が得られている。

本調査では相手I、II、III、V、VIでは「同性同士」も「異性同士」も距離の平均は「自分→相手の距離」<「相手→自分の距離」で、相手IVでは「同性同士」は「自分→相手の距離」<「相手→自分の距離」だが「異性同士」は「自分→相手の距離」>「相手→自分の距離」となり美山論文の結果と一致する。

3.8 まとめ

全体を通して、IからVIの全ての相手に有意差や有意傾向が得られた。一対の標本による平均のt検

定においては相手ⅠからⅥ全てで有意差があり、特に相手ⅤとⅥは有意差のあるデータが多かった。さらに相手ⅤとⅥは他と違い $p<.001$ で大きく有意差があったものが出た。また、相手Ⅳ以外の全ての相手は全体で検定をかけたところ有意差があるという結果になった。有意差や有意傾向があったものの中に自分→相手の距離の平均値が相手→自分の距離の平均値より大きくなったものはない。

f 検定や等分散・非等分散の t 検定において、相手ⅡとⅢでは有意差や有意傾向はなかった。相手ⅠとⅣでは相手→自分の距離のみで有意差や有意傾向があり、相手ⅤとⅥはどちらの距離も有意差や有意傾向があった。

3.9 考察

回答数が最も少なかったのは相手Ⅲの異性の友人で、同性の友人と比べて5人少ない。ここから調査中の意見にあったように「推し」が異性であることはあっても異性が「推し」になることがない人が他にもいたと予想される。

さらに調査中の意見から「推し」の定義に違和感がある、「人に薦めたい」の部分がピンとこないと答えた人がいたが、これは第1章で語ったように「推し」を「好きなもの」として捉えている人だと考えられる。その他、相手の分類で困ったという意見があり、相手ⅠからⅥの分類自体を修正するか、もしくは本調査で出た「SNSでアカウントは知っているけど連絡したことはない人」など分類が難しいものは適宜こちらで先にどこに分類されるか設定しておくといった修正をすべきと考えられる。

分析では自分の性別、相手の性別、自分→相手の距離、相手→自分の距離で一对の標本による平均での t 検定や f 検定、等分散・非等分散の t 検定を行った。

その結果、有意な差や有意な傾向は相手ⅠからⅥの全てに見つかった。興味深い結果は、全体として検定をかけたところ相手Ⅳの「相手ⅠからⅢ以外で連絡を取れる一番の『推し』」のみ有意差も有意傾向も出なかった点と、相手Ⅳのみ平均値を比較すると「自分→相手の距離」が「相手→自分の距離」より長かった点が挙げられる。

この2点から相手Ⅳの分析結果は少々特殊であることが分かる。今後の調査の際には相手Ⅳをより詳細に記入してもらい、または相手の分類自体を変更してみるなど、検討すべきである。

他にも相手ⅤとⅥで有意差や有意傾向が多かったという特徴的な結果があった。なお相手ⅠからⅣは

相手の性別分類が2種類（男性・女性）だが相手ⅤとⅥは3種類（男性・女性・性別がないまたは分からない）のために検定条件が増え、検定結果ごとのデータ数が10以下のものが多くなったことから信頼性が低い結果であると言える。今後の調査ではこの点を加味して相手ⅤとⅥは特に多数に調査をして、その上で有意差や有意傾向があるか調査してみるべきである。

美山論文[14]より同性同士の方が異性同士より「自分→相手の距離」<「相手→自分の距離」となりやすく、実際調査では相手ⅠからⅥ全てで同様の結果になった。

しかし美山論文[14]で他に女性は男性より概して距離を短くしやすいという結果があったが、同様の結果は相手ⅠとⅡのみにみられ、相手ⅢからⅥは異なる結果となった。理由として美山の論文では友人間における心理的距離を測っており、本調査では「推し」への心理的距離を測っていたため友人にはなりえない相手（恋愛相手やマスコット）との心理的距離も含まれたためと推察される。

4 結論

「推し」の特徴を調べるために本研究では心理的距離を測定した。心理的距離は相手を最大6人想像してもらい、それぞれの相手に関して自分→相手の距離と相手→自分の距離、相手の性別と自分の性別も記入してもらった。そのデータを相手と自分の性別、自分から相手への距離と相手から自分への距離で分け、一对の標本による平均の t 検定、f 検定、等分散・非等分散の t 検定で分析したところすべての相手において有意差や有意傾向があった。ただしデータ数が極端に少なく信頼性が低い分析結果もある。

特徴的だったのは特に相手4の「相手1から3以外で連絡を取れる一番の『推し』」についての分析結果である。一对の標本による平均の t 検定において、検定条件が「全体」の時に自分から相手と相手から自分の2つの距離で分析したところ相手1から6の内相手4のみ有意差も有意傾向も出ず、さらに検定条件によっては相手4のみ平均値において「自分から相手への距離」が「相手から自分への距離」より長くなっている。

その他に特徴的だったのは相手ⅤとⅥで有意差や有意傾向のあった結果が多かったが、分析の際に条件を細分化したためにデータ数が10以下のものが多く、信頼性が低い結果となった。

今後の予定としてはまず心理的距離をより多くの人に、相手の詳細をより詳細に回答してもらい

である。さらに心理的距離以外で「推し」の特徴となり得るものを探ることや「推し」相手の条件を吟味することなども必要と考えられる。

謝辞

本件の一部は公益財団法人コーセーコスメトロジー研究財団の2023年度コスメトロジー研究助成によって実現しました。ここに深謝いたします。

参考文献

- [1] ニッセイ基礎研究所:若者に関するエトセトラ(2)ー若者言葉について考える2ー推ししか勝たんー, <https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=64923?pno=2&site=nli> (参照 2024-2-16)
- [2] withnews:オタクに偏見ないZ世代、「推し」はコミュニケーションツールへ, <https://withnews.jp/article/f0210604005qq0000000000000000W07n10801qq000023126A> (参照 2024-2-16)
- [3] 宇佐見 りん:推し、燃ゆ, 河出書房新社, 128p, (2020)
- [4] コトバンク:推し(オシ)とは?意味や使い方, https://kotobank.jp/word/%E6%8E%A8%E3%81%97-2132332#goog_rewarded (参照 2024-2-16)
- [5] 小田 亮:なぜ人は助け合うのかー利他性の進化的基盤と現在ー, 心理学評論, Vol.63, No.3, pp308-323, (2020)
- [6] ナショナル ジオグラフィック 日本版サイト:吸血コウモリはなぜ仲間に血を分け与えるのか, <https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/15/112000331/> (参照 2024-2-16)
- [7] NHK:沼にハマってきいてみた, <https://www.nhk.jp/p/hamatta/ts/KNY2YKWLG9/> (参照 2024-2-16)
- [8] 平尾アウリ:推しが武道館いってくれたら死ぬ 1, 徳間書店, 158p, (2016)
- [9] 森岡桃子:「わたし」のための祈り 宇佐見りん『かか』『推し、燃ゆ』について, 人文 × 社会, Vol.1, No.1, pp587-596, (2021)
- [10] 池田 太臣:一方的だけど、一人じゃない:”推しと私”の「人間関係」, 女子学研究 / 甲南女子大学女子学研究会 編, Vol.12, pp2-12, (2022)
- [11] 井上 淳子, 上田 泰:アイドルに対するファンの心理的所有感とその影響についてー他のファンへの意識とウェルビーイングへの効果ー, マーケティングジャーナル, Vol.43, No.1, pp18-28, (2023)
- [12] Pierce, J. L., Kostova, T., Dirks, K. T.: Toward a theory of psychological ownership in organizations. *Academy of Management Review*, Vol.26, No.2, 298-31

0, (2001)

- [13] 馬場伸彦:視覚イメージとしてのアイドル論:『見ること』によって呼び出される集合的記憶, 甲南女子大学研究紀要 I, Vol.56, pp47-56, (2020)
- [14] 美山 里香:”大学生の友人との心理的距離に関する基礎的研究”, 九州大学心理学研究, Vol.4, pp27-35, (2003)
- [15] 天貝由美子:”中・高校生における心理的距離と信頼感との関係”, カウンセリング研究, Vol.29, No.2, pp130-134, (1996)